

せん 福祉用具モニタリング シートの重要性をアピール

全国福祉用具専門相談員協会(ふくせん、山下一平会長)は4月15日大阪で開かれた「バリアフリー20

10」の会場で「あなたは勝ち残れるかー福祉用具専門相談員、選別の時代」と題するシンポジウムを開催

先ごろ同協会が開発した福祉用具個別援助計画書「モニタリングシート」の推進を訴えた。

生活、気持ち、家族の4項目の変化をみるための記入欄を設けたこと」と強調。さらに①モニタリングの意識を高めるための次回予定

②ヒアリングの相手の明確化③メンテナンスにも対応できるための工夫ーなどのシートの特徴を紹介した。

ケアマネジャーの立場から参加した社会福祉法人白寿会の三浦浩史氏は、福祉用具専門相談員はケアマネジャーと共に目標を共有しなければならぬと語り、「ケアマネジャーはベッドの導入を利用者の機能を補うためと考えがちで、その目標となると曖昧。福祉用具の個別援助計画書やモニタリングシートは用具の目

標を明確化させ、その情報を共有できるツール」と見解を述べた。

経営者の立場からはカクイックスウィング社長の岩元文雄氏が発言。「貸与事業者の競争は質と価格で行われる。保険制度がはじまった当初に比べ、福祉用具専門相談員に求められるスキルは非常に高くなった。相談員は単なる運び屋ではない。価格至上主義では貸与事業者は生き残れない」と事業者の現状を訴えた。

また高齢者生活福祉研究所長の加島守氏は、措置時代と違い介護保険制度下では、用具は利用者を選択権があることから「利用者に支持されるには継続的なフォローが必要。モニタリングシートはその重要なツールであり、シートを書くことは明確な訪問理由となる」とシートの重要性を強調した。



モニタリングシートについて議論するパネラー

「最大のポイントは身体、

内容解説。

「最大のポイントは身体、